

無憂樹

令和6年2月号

浄尊寺

熊本市西区田崎

1-4-39

TEL・FAX

096-354-6530



福も内・鬼も内



「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表すと共に、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また1日も早く安心して日々をお過ごしになれますように願うばかりです。さて2月3日は節分ですね。節分とは「季節を分ける」という意味があるそうです。季節が変わる節日を指し、特に日本で春は1年の始まりとして尊ばれたため、次第に節分といえは春

が始まる日「立春」の前日、冬と春を分ける日だけを節分と指すようになったとのこと。また節分には豆まきがおこなわれます。これは季節の変わり目には邪気「鬼」が生じると信じられていたため、「豆は「摩滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより邪気を追い払い、1年の無病息災を願う」という意味合いがあるそうです。そこから「やっかいな者」「鬼」は外、「良い者」「福」は内と掛け声を言いながら豆まきがおこなわれるようです。

しかし本当に「鬼」は外なのでしょうか？

浄土真宗のみ教えを喜ばれてお念仏の生活をおくられた方を讃えて「妙好人といわれますが、その中に浅原才市という方がおられました。ある時、画家が才市さんの肖像画を書いてくれたそうです。周りの方達も才市さんにそっくりとほめました。画家は完成した絵を喜んでくると思ってた見せると、才市さんは「全然自分に似ていない」と言いました。画家は「どこが似ていないのですか」とたずねると才市さんは「私の頭には鬼のツノが2本はえている、それを描いてください」と言いました。画家が鬼のツノを頭に2本書き足し

て見せると才市さんは「これが自分のすがただ」とたいへん喜んでそうです。

私たちに人は人をねたんだり、うらやんだり、おこたりする自分中心にしか考えられない鬼のような心があります。才市さんはその心こそ自分の中にすむ鬼だと、鬼を自分の内に見ていかれたすがたがありました。阿弥陀さまは、そのような鬼の心を持ち合わせている私を必ず仏に生まれさせると「南無阿弥陀仏」となつて一緒にしてください。今年の節分は「福も内」「鬼も内」と豆まきをしてみたいかがでしょうか。